

経営比較分析表（令和2年度決算）

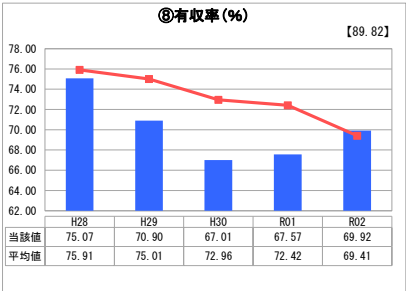
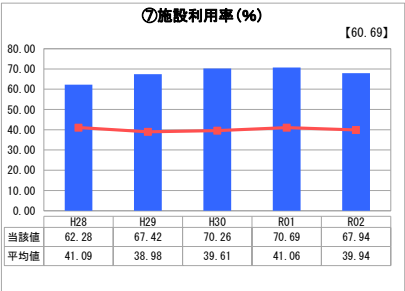
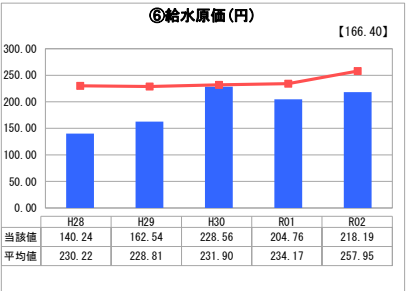
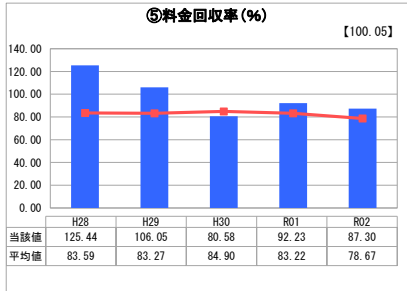
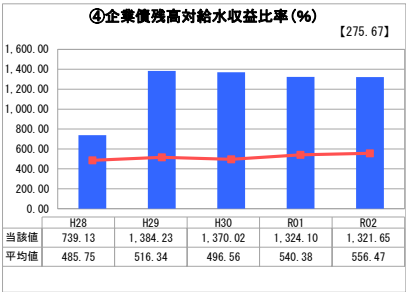
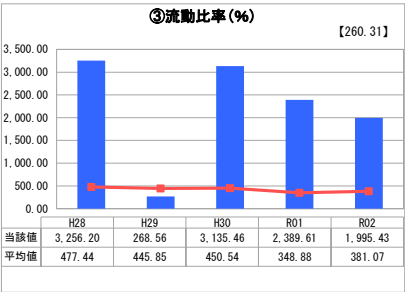
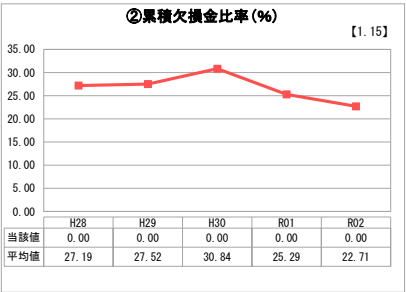
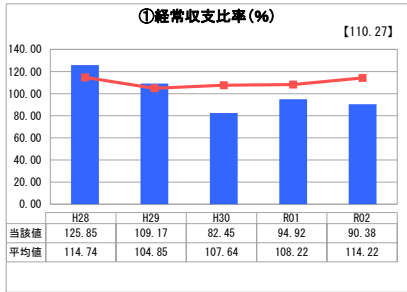
山形県 小国町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	48.41	63.34	3,762	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
7,248	737.56	9.83
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,540	6.92	656.07

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

（収益の分析）
経常収支比率は減価償却費の増加もあり平均値を下回っており、令和元年度決算と横ばいで経過している。料金回収率も前年並みだが、今後より一層の経営努力が求められる。漏水調査と老朽配管の更新を進めてきたため、有収率は改善傾向にある。

（企業債残高）
新たな水源池及び配水池への設備投資により、企業債残高が大きく平均値を上回っている。今後の大きな設備投資は予定されていないものの、企業債償還を随うため、料金改定を含めた安定的な給水収益の確保が必要である。

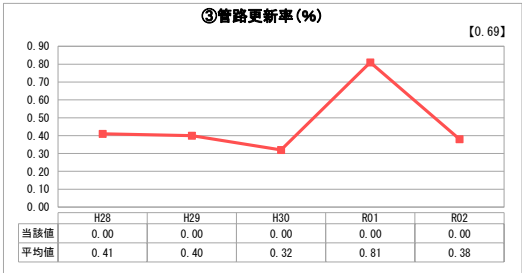
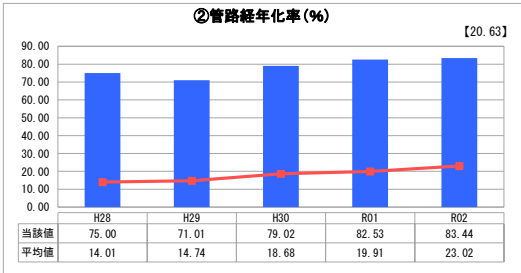
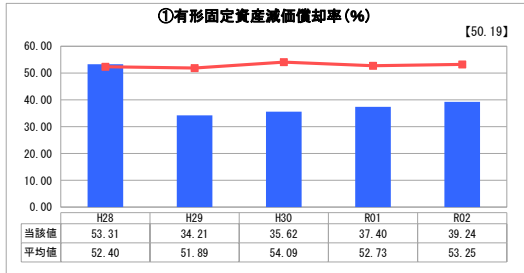
（施設利用率分析）
給水人口はやや減少しているが、施設利用率は継続して平均値を上回って推移しており、現状の設備を有効に活用できている。

（経営の健全化、効率性の分析）
累積欠損金はなく安定的な経営を続けてきたところであるが、平成28年度からの施設への設備投資の影響により給水原価が大きく増加している。合わせて、企業債残高も増加していることから、将来的な安定給水と安定経営を維持するためには、料金改定を検討しながら、更に効率的な経営を追求していかなければならない。

2. 老朽化の状況について

管路更新よりも新水源池及び配水池の整備を優先してきたため、老朽化した管路の更新が進んでおらず、管路経年化率が平均値を大きく超えていることが課題となっている。今後はアセットマネジメントの策定を足掛かりに、計画的かつ効率的な管路更新を実施し、持続可能な経営を目指していく。

2. 老朽化の状況



全体総括

新水源池等完成前の平成29年度までは健全な経営だったが、設備投資に伴う企業債残高及び減価償却費の増加が顕著となり、経営へ大きな影響を与えている。

安定的な経営に向けて、料金回収率や有収率の向上、経営努力によるコスト削減に努めながら、料金改定を検討し、アセットマネジメントに基づいて効率的な経営を進める。